

# 令和7年度版 雑草イネ対策指針

\* 雑草イネ対策は、麦・大豆・そば等への「転作」がもっとも確実な方法です。色彩選別機による対応だけでは根本的な対策になりません

\* やむを得ず稲作を続ける場合は、下記のとおり適正な防除を実施して下さい。(漏水田は除草剤の効果が期待できません)

\* 雑草イネ発生圃場は除草剤が3剤処理体系となるため安心基準米として仕切いたします。

上伊那農業農村支援センター・JA上伊那

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
水田作業	春耕起	入水 健苗育成	荒代かき 早め	植え代かき 除草3剤体系	最高分け時期 抜取り期間	幼穂形成期 追肥	出穂 出穂	成熟期 脱粒	収穫
雑草イネの生育相 防除のポイント	○ 転作の仕方: 連続3年転作 (効果) 畑作物の栽培により、雑草イネが減少～根絶 水稲直播が定着～増加 など			① 植代直後、移植7日前 エリジアンジャンボ	② 移植直後 アピログロウMXジャンボ または(移植3日後) アピログロウMX1キロ粒剤	③ 移植後10日または13日 フロアブルまたはジャンボ カイリキZ1キロ粒剤または	※ フラ焼却処理	※ 秋耕起は実施しない	
雑草イネに対する除草剤の効果は出芽～不完全葉期まで期待できるが、第1葉期以降は効果がない。遅れて出芽する雑草イネもある。除草剤の効果が切れないように連続して処理する。									
防除方法	<p>※ 雑草イネ対策は、転作が最も確実。基本的に2～3年の転作で種子は根絶します。「雑草イネがでたら転作！」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>【除草剤処理についてのポイント】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>植代から移植までの期間は7日とし、除草剤の効果高める。 ※ 植代は浅く処理する。(発芽した雑草イネを埋め込むように) ※ 移植(田植え)は最後に行う。収穫も最後になることを考慮し、5月25日を目安にする。</li> <li>第1回目の除草剤は、移植同時又は移植直後に処理する。</li> <li>第2回目の除草剤は落水せず連続して行き、第1回処理の10日後を目安に処理する。</li> <li>第3回目の除草剤も落水せず連続して行き、第2回処理の10日後を目安に処理する。</li> </ol> <p>* ポイント: 丁寧な代掻きと水漏れ防止、田面を出さない</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>【抜取りから秋の対応についてのポイント】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>除草剤処理時に1葉以上の雑草イネは、薬剤が効かないため抜取りを行う。 最終除草剤処理後(中干前)に畦間、株間の漏生苗を抜取る。</li> <li>雑草イネは、出穂後に確認しやすくなる。出穂後10日までに抜取りを徹底する。 抜取った雑草イネは圃場外へ持ち出し処理する。根部は再生しないように抜取るのが原則(再生し穂が出るため)</li> <li>雑草イネ発生圃場の収穫は最終とし、他の圃場への拡散を防ぐ。</li> <li>農業機械の清掃・作業準備を徹底する。 ※トラクターやコンバインに付着した土壌を落とす。 ※作業機による移動が懸念されるコンバイン等の作業は雑草イネ発生圃場を最後にする。 ※格納車の泥などの清掃も徹底する。</li> <li>秋耕起は実施しない。 ※冬期間に田の表面で凍み乾くようにして、圃場の種子の量を減らす。</li> </ol> </div> </div>								
防除体系(3剤体系処理・各剤1回散布)	<p>1 雑草イネに効果のある除草剤を、植代直後または田植後からの3回処理する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>◎ 植代直後からの3回処理 ※ 植代と田植の間隔は7日</p> <p>第1回処理: 植代直後 エリジアンジャンボ: 10パック(300g)/10a (植代後～移植7日前、1回)</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>第2回処理: 移植直後、又は移植3日後 アピログロウMX1キロ粒剤: 1kg/10a(移植直後～30日まで、1回) 又はアピログロウMXジャンボ: 10パック(400g)/10a</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>第3回処理: 第2回処理後10日目 カイリキZ1キロ粒剤: 1kg/10a 又は カイリキZフロアブル: 500ml/10a 又は カイリキZジャンボ: 10パック(300g)/10a (1キロ粒剤は移植直後～30日まで、フロアブル、 ジャンボ剤は移植3日後～30日まで、1回)</p> </div> </div> <p>◎ 移植同時・直後からの3回処理 ※ かねつぐ1キロ粒剤は移植同時散布ができる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>第1回処理: 移植直後、移植同時 エリジアンジャンボ: 10パック(300g)/10a 又は かねつぐ1キロ粒剤: 1kg/10a (上記いずれも移植直後～30日まで、1回)</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>第2回処理: 第1回処理後10日目 カイリキZ1キロ粒剤 又は フロアブル 又は ジャンボ(散布量、時期は上記参照) 又はアピログロウMX1キロ粒剤: 1kg/10a(移植直後～30日まで、1回) 又はアピログロウMXジャンボ: 10パック(400g)/10a(移植後3日～30日まで、1回)</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>第3回処理: 第2回処理後10日目(移植後30日まで) ザーベックス SM 粒剤: 3kg/10a (移植後20～30日まで、1回) 又は他の雑草発生がほとんどない雑草イネ発生水田で スタメンフロアブル: 500ml/10a(移植当日～30日まで、1回)</p> </div> </div> <p>2 除草剤の処理後、畦間や株間に残った漏生苗は出穂まで(7月中旬まで)に全て抜取る。 3 出穂前後から刈取まで定期的に雑草イネの抜取りを行う。</p>								
雑草イネの特徴	<p>* 玄米が赤褐色で、出穂後2週間頃から脱粒を始める</p> <p>* 落下した籾から出芽するため、個体毎に生育差が大きい。 出穂はコシヒカリより早いものから遅いものまでバラツキが大きい。(コシヒカリに酷似した新タイプが発生し始めている)</p> <p>* 籾は成熟期には褐色を呈する</p> <p>《従来タイプ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 籾(玄米)長はコシヒカリより長い</li> <li>* 草丈は出穂後コシヒカリより1穂分程度高い</li> <li>* ふせん色は赤く、ノゲがあれば赤色が長い</li> <li>* 葉色が濃く、止め葉が長く見えることが多い。</li> </ul> <p>穂ひとつ分草丈が高いもの</p> <p>穂先のノゲが長いものが多い。</p> <p>《新タイプ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 一般米と区別がしにくい、早期黄化・脱粒する</li> </ul> <p>要注意</p> <p>除草剤の効果を維持するために 常時湛水状態 (田面を露出させない)が重要です。</p>								
雑草イネの玄米									

# 雑草イネ(赤米)を根絶しましょう!!

上伊那農業農村支援センター  
JA上伊那

- ・近年県下の水田で「雑草イネ」が増加し、上伊那地区でも増加傾向にあります。
  - ・雑草イネの玄米は「赤～赤褐色」なので、「赤米」とも呼ばれています。脱粒性（風が吹いただけで、籾がポロポロとこぼれ落ちる）が高く、いったん水田に落ちると、耕耘等の作業で全体に広がるため、防除が難しくなります。
  - ・雑草イネの玄米が出荷物に混入すると検査等級が低下し、「品種銘柄」の表示ができなくなるなど、米を生産・出荷する上での大きな問題となるので、地域ぐるみで撲滅に向けた取り組みが必要です。
- ※ 出荷物を色彩選別機にかけて「赤米」を除去しても、圃場で撲滅する対策を打たない限り数年で全体に広がり、色彩選別機でも除去することが不可能になります。

## 【上伊那地区で発生している 主な雑草イネの特徴】

- ・雑草イネには、いくつかの種類があります。一般の品種と比較して最も特徴的な違いは、玄米が「赤～赤褐色」、脱粒性（風が吹いたり穂に触れただけで、籾がポロポロと落ちる）が高いことです。脱粒は出穂10日後頃から始まり、脱粒した籾は発芽能力があります。また土中では3～4年生き続けます。
  - ・雑草イネは圃場に落ちた翌年、入水すると発芽が始まります。出穂期は田植えをした「コシヒカリ」とほぼ同時期です。
    - 「Aタイプ」：稈長が長く、籾が黒茶色、「のげ」が長く、「のげ」の色や「ふ先色」が赤い等で見分けられます。
    - 「Dタイプ」：稈長は「コシヒカリ」並で、籾の色も「コシヒカリ」と同様ですが、「ふ先色」が赤いので見分けられます。
    - 「Hタイプ」：外見では「コシヒカリ」と見分けが付きません。
- ※ 脱粒しない紫黒米（穂が黒い）、いわゆる「古代米」は雑草イネではありません。



Aタイプの成熟期



Dタイプの成熟期



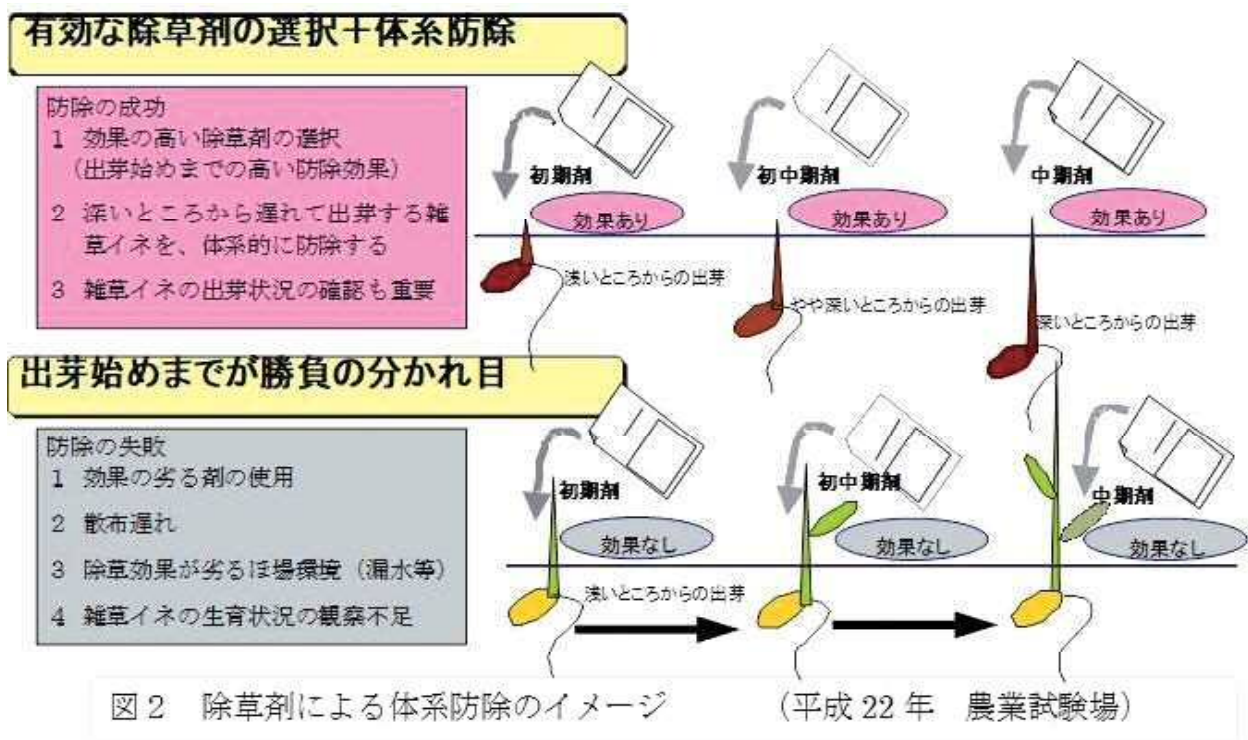
Hタイプの成熟期

## 【雑草イネ（赤米）の対策】

除草剤による対策と耕種的な対策、両方を3～4年継続して根絶します。

### 1 除草剤による対策

雑草イネに対して効果のある除草剤を、雑草イネが出芽する前に散布して防除します。雑草イネの種子は、圃場の地表付近の極浅いところから深いところにまで分布していますので、田植え直後から7～10日おきに3回散布します（植え代から田植えまで7日以上あく場合は、植え代直後に1剤目を散布し、田植え直後に2剤目、その7～10日後に3剤目を散布します）。JA上伊那の「令和7年度「米穀・野菜」施肥基準」に織り込まれている「雑草イネ対策指針」に雑草イネに対して効果のある除草剤3剤体系が掲載されています。雑草イネが発芽して第1葉が伸びてからでは、除草剤は効きません。いずれかの体系を選択して適期を失ないように散布してください。



### 2 耕種的な対策

#### ・手取り除草

雑草イネを枯らすには、発芽する前に除草剤を散布することが基本です。植え代を掻くことにより、発芽した雑草イネは埋め込まれますので、植え代直後または田植え直後に1剤目を散布し、その後7～10日おきに2剤目、3剤の除草剤を散布すれば、

雑草イネは生えてこないはずですが。しかし実際には、発芽した雑草イネを植え代で100%埋め込むことはできません。埋め込まれずに活着した雑草イネには除草剤は効きませんので、生き残ってしまった雑草イネは抜き取るしかありません。

3剤体系処理後、6月下旬頃に畦間、株間（移植した位置以外）に見えるイネは、雑草イネであると疑って、全て抜き取り圃場外に持ち出し、焼却処分してください。7月になると畦間が見えなくなりますので、6月のうちに抜き取ってください。



畦間・株間がこのような状態になっていませんか？  
(放置したり除草剤で失敗すると、このようなことにも・・・)



### 出穂期の抜き取り

出穂期になると一般の稲と穂の外観が異なる雑草イネは見分けることができます。雑草イネは出穂して10日もすると脱粒が始まりますので、その前に直ちに抜き取って圃場外に持ち出し焼却処分してください。

株ごと抜き取るか、地際から刈り取ってください。高い位置で刈り取ると、遅れ穂が発生します。抜き取る時、脱粒するかもしれないので、大きめのビニール袋等を用意して、籾を落とさないように注意して持ち出します。

適期に除草剤の3剤体系を処理しておけば、抜き取る雑草イネを大幅に減らすことができます。

### ・ 秋起こしをしない

雑草イネの種子は、土中では3～4年間生き続けます。秋起こしをすると、その年圃場に落ちた種子を土中深くに埋め込むこととなります。深い位置に埋没した種子は発芽せずに、そのまま3～4年は生き続け、耕起等により再び地表近くに出てきたときに発芽します。秋起こしをしないと、地表にある種子は冬の寒さで凍結し、ある程度死滅します。

- ・ **発生圃場の作業（耕起、代掻き、田植、収穫）は最後にする**

雑草イネが発生した圃場で作業した農業機械を、他の圃場に移動することにより雑草イネの種子が拡散します。雑草イネが発生した圃場の作業は一番最後にして、作業後は機械をよく洗浄して泥とともに付着している雑草イネの種子を洗い落としてください。

- ・ **畑作物に転作する**

転作（晩播大豆・秋そば等）して、イネ科雑草の防除を3～4年繰り返すことにより、雑草イネは激減します。

雑草イネが発生したら、JAか農業農村支援センターにご相談ください。以上の対策を講じて、雑草イネを早期に撲滅しましょう。